「授業力評価スタンダード（音楽科）」

観点＼段階	段　階　1	段　階　2	段　階　3
Ａ．授業構想力			
１．学習者の把握			
１）学習者の実態把握	クラス全体の子どもたちの学習状況を把握し、学習課題を明確にすることができる。	子どもたち一人ひとりの学習状況を学習の記録に関わる客観的な情報に基づいて的確に把握し、学習課題を明確にすることができる。	子どもたちの学習生活環境や学力の習得状況に基づいて、子どもたち一人ひとりの学習状況を論理的に把握し、的確な学習課題を明確にすることができる。
２）学習への構え・ルールづくり	子どもたちが既に習得している学習規律を理解し、これに基づいて指導を展開することができる。	子どもたちと教師によって展開されるコミュニケーションを実現させるために必要とされる学習規律を、子どもたちが納得できる方法で設定し、子どもたち一人ひとりの個性に基づいて活用することができる。	望ましい学習環境を維持していくために、子どもたちと相互にかかわり合いながら、協同的に学習規律を工夫し、子どもたちが主体的に学習規律を守り、修正していくことができるような学びの共同体を育てていくことができる。
２．目標の分類と設定	子どもたちの学習状況をふまえながら、音楽に対する関心・意欲・態度と音楽の構造の知覚、音楽の美しさの感受、演奏や聴取の技能という観点から、学習目標を設定することができる。	学習指導要領や特定のカリキュラムと子どもたちの学習状況をふまえながら教材を吟味し、音楽に対する関心・意欲・態度と音楽の構造の知覚、音楽の美しさの感受、演奏と聴取の技能という観点から目標を分類し、学習評価の規準と基準を設定することができる。	学習指導要領や特定のカリキュラムをふまえると同時に、障害等を含む多様な子どもたちの学習状況や生活状況をふまえながら教材を吟味し、音楽に対する関心・意欲・態度と音楽の構造の知覚、音楽の美しさの感受、演奏と聴取の技能という観点から目標を分類し、学習評価の規準や基準を設定することができる。
３．授業構成			
１）教育内容の構成	学習指導要領や特定のカリキュラムと子どもたちの学習状況をふまえながら、子どもたちが教材を通して学ぶ内容を明確に把握することができる。	学習指導要領や特定のカリキュラムと子どもたちの学習状況をふまえながら、子どもたちが教材を通して学ぶ内容を学習の深まりと広がりという観点から位置づけることができる。	学習指導要領や特定のカリキュラムと子どもたちの学習状況をふまえると同時に、学校目標や学年目標をふまえながら、子どもたちが教材を通して学ぶ内容を学習の深まりと広がりという観点から構成することができる。
２）教材の選択・構成	設定された目標と学習課題に基づいて、子どもたちの学習に適した教材を吟味し、選択・構成することができる。	設定された目標と学習課題に基づいて、子どもたちの学習に適した教材を吟味し、主教材と副教材という観点で教材を関係づけ、構成することができる。	設定された目標と学習課題に基づいて、子どもたちの学習に適した教材を吟味し、題材の中で子どもたちの探究活動が有効に展開されるように教材を編成することができる。

観点＼段階	段　階　1	段　階　2	段　階　3
3）授業過程の組織	音楽のゲシュタルト性をふまえながら、学習活動が音楽の全体的な把握から、分析的な探究、全体像のとらえ直し、という流れで授業過程を組織化することができる。	音楽のゲシュタルト性をふまえると同時に、音楽の知覚と感受という観点から学習活動を組織化し、子どもたちの学習状況に適した指導行為を組織化することができる。	題材レベルで子どもたちの学習活動が連続的に発展するような学習過程の組織化と教材の構造的編成を授業過程に具体化することができる。
4）学習法・学習形態の選択・構成	学習課題に適した遊び活動や探究活動を選択し、子どもたちの学習状況と教材の特性にふさわしい学習形態を組織化することができる。	子どもたちの課題意識が活性化されていくように遊び活動や探究活動を選択し、協同的な探究活動が展開されるような学習形態を適切に組み合わせることができる。	題材レベルで歌唱、器楽、創作、鑑賞等の多様な学習活動を組み込み、課題追求が活性化されるような個別学習やグループ学習、一斉学習を適切に組み合わせ、組織化することができる。
4．単元計画（授業計画）			
1）単元（授業）計画の作成	前時の授業と次時の授業で扱われる学習課題の関連に基づいて、児童観や教材観、指導観を明確にし、授業計画を成文化することができる。	子どもたちの学習状況と教材の特性をふまえながら、課題意識の活性化を促す学習指導計画を成文化することができる。	子どもたちの学習状況と学習課題に基づいて題材設定の理由を明らかにし、ここで必要とされる学習活動や教材の意義を論理的に記述することができる。
2）学習指導案の作成	実習指導教員の指導に基づいて学習目標を成文化し、具体的な学習指導過程と評価の手だてを的確に記述することができる	自分で把握することができた子ども観と教材観、指導観に基づいて学習目標を成文化し、具体的な学習指導過程と評価の手だてを的確に記述することができる。	題材レベルでの目標に基づいて、個々の授業目標の達成を目指した子どもたちの学習活動と教師の支援を具体的に記述することができる。
3）学習評価計画の作成	授業過程における個々の場面で、指導構想に関連した評価の観点を明確に記述することができる。	観察法、実技試験法、質問紙法等の手だてを活用しながら、学習指導場面に適した評価の内容と方法を記述することができる。	子どもたち自身の学習の振り返りと教師の指導行為の反省的な考察のために活用できる評価シートや録音・録画等の情報提供を活用し、子どもたちの学習活動を活性させると同時に、査定のための資料を蓄積することができる。

観点＼段階	段　階　1	段　階　2	段　階　3
Ｂ．授業展開力（授業構想力をふまえながら、授業実践の場で臨機に発揮される能力群）			
１．パフォーマンス			
１）音楽的パフォーマンス ①範唱	教材となり得る歌唱曲にふさわしい拍節法とディクション（歌詞の発音法）に基づいて、歌唱教材を範唱することができる。	子どもたちの学習課題に適した範唱を工夫し、これによって子どもたちの探究活動を促すことができる。	子どもたちの学習課題に適した範唱を工夫し、これによって子どもたちの探究活動を促すことができると同時に、その吟味の方法と実際のスキルを他者に指導することができる。
②範奏	教材となり得る楽曲にふさわしい拍節法に基づいて、範奏することができる。	子どもたちの学習課題に適した範奏を工夫し、これによって子どもたちの探究活動を促すことができる。	子どもたちの学習課題に適した範奏を工夫し、これによって子どもたちの探究活動を促すことができると同時に、その吟味の方法と実際のスキルを他者に指導することができる。
③伴奏	子どもたちの学習にふさわしい伴奏を選択、あるいは編曲し、楽曲全体の曲想にふさわしい伴奏をすることができる。	子どもたちの学習課題に適した伴奏を工夫し、これによって子どもたちの探究活動を促すことができる。	子どもたちの学習課題に適した伴奏を工夫し、これによって子どもたちの探究活動を促すことができると同時に、その吟味の方法と実際のスキルを他者に指導することができる。
④身体表現や指揮	子どもたちと音楽を分かち合うことが可能な身体表現や指揮を工夫し、適切に演じることができる。	子どもたちの学習課題に適した身体表現や指揮を工夫し、これらによって子どもたちの探究活動を促すことができる。	子どもたちの学習課題に適した身体表現や指揮を工夫し、これらによって子どもたちの探究活動を促すことができると同時に、その吟味の方法と実際のスキルを他者に指導することができる。
⑤アインザッツ（合図）	子どもたちがスムーズに演奏することができるようなアインザッツ（合図）を演じることができる。	子どもたちの学習課題に適したアインザッツ（合図）を工夫し、これによって子どもたちの探究活動をスムーズに促すことができる。	子どもたちの学習課題に適したアインザッツ（合図）を工夫し、これによって子どもたちの探究活動をスムーズに促すことができると同時に、その吟味の方法と実際のスキルを他者に指導することができる。

観点＼段階	段　階　1	段　階　2	段　階　3
2）言語的パフォーマンス			
①基礎的な発話、演技性（発音、スピード、ボリューム、間）	子どもたちが聴き取ることができるような発話を演じることができる。	子どもたちの学習の活性化を意図した明瞭な発音、スピード、ボリューム、間（沈黙）等が適切に演じられている。	子どもたちの学習の活性化を意図した明瞭な発音、スピード、ボリューム、間（沈黙）等が適切に演じられていると同時に、このような工夫を他者に指導することができる。
②適切な語彙、説明、例話	子どもたちの学習状況にあった適切な語彙に注意が払われ、簡潔な説明や例話が演じられている。	音楽の探究を促す隠喩的な語彙や例話が適切な順番に紹介され、子どもたちの学習を活性化させることができる。	音楽の探究を促す隠喩的な語彙や例話が適切な順番に紹介され、子どもたちの学習を活性化させることができると同時に、このような工夫の根拠となる論理と実践の方法を他者に指導することができる。
③歌詞の範読	子どもたちが模倣することが可能な範読が演じられている。	楽曲の特性をふまえながら、歌唱表現の工夫にふさわしい範読が演じられている。	楽曲の特性をふまえながら、歌唱表現の工夫にふさわしい範読が演じられていると同時に、このような工夫の根拠となる論理と実践の方法を他者に指導することができる。
④発問	子どもたちが音楽の探究を展開していくことができるような問いかけや語りかけを行っている。	子どもたちの探究活動を呼び起こす発問群が準備され、子どもたちの学習状況に基づいて臨機に修正し、提示することができる。	子どもたちの探究活動を呼び起こす発問群が準備され、子どもたちの学習状況に基づいて臨機に修正し、提示することができると同時に、発問の教授学的な意義を理解し、その特性と工夫の方法を他者に指導することができる。
⑤指示	子どもたちが誤認することのない指示を的確に演じている。	子どもたちの注意を集中させ、学習課題に適した指示を明確に演じている。	子どもたちの注意を集中させ、学習課題に適した指示を明確に演じていると同時に、指示の教授学的な意義を理解し、その特性と工夫の方法を他者に指導することができる。
⑥司会、助言、応答	子どもたちと相互に音楽を分かち合うために、言葉による指導を展開している。	子どもたちの一人ひとりの発言や音楽的表現を的確に把握し、学習集団としての分かち合いが円滑に行われていくように司会や助言、応答を演じている。	子どもたちの一人ひとりの発言や音楽的表現を的確に把握し、学習集団としての分かち合いが円滑に行われていくように司会や助言、応答を演じていると同時に、音楽によるコミュニケーションの特性とその活性化の方法を他者に指導することができる。

観点　段階	段　階　1	段　階　2	段　階　3
3）子どもたちへの対応 ①身体的ジェスチャー、表情	子どもたちと共に音楽の授業を過ごすために必要な身体的ジェスチャーや表情を工夫している。	子どもたちの学習状況を的確に把握し、子どもたちが安心して学習に参加することができるような身体的ジェスチャー（身振り）や表情を演じている。	子どもたちの学習状況を的確に把握し、子どもたちが安心して学習に参加することができるような身体的ジェスチャー（身振り）や表情を演じていると同時に、その意義や配慮と工夫を他者に指導することができる。
②視線（アイコンタクト）	教室のすべての子どもたちに視線（アイコンタクト）が向けられている。	子どもたちの注意力や集中力、安心感を呼び起こすような視線（アイコンタクト）を演じている。	子どもたちの注意力や集中力、安心感を呼び起こすような視線（アイコンタクト）を演じていると同時に、その意義や配慮と工夫を他者に指導することができる。
③教室内での位置取り	すべての子どもたちが学習可能な位置に立って授業を展開している。	個々の学習形態に適した位置に立ち、子どもたちとの分かち合いがスムーズに行われるように配慮している。	個々の学習形態に適した位置に立ち、子どもたちとの分かち合いがスムーズに行われるように配慮していると同時に、その意義や配慮と工夫を他者に指導することができる。
④予想外の子どもの発言や音楽的表現への対応	受容的な態度で子どもの発言や音楽的表現を受けとめている。	子どもの考えの根拠を確認し、子どもの学習状況に適した説明や補足、修正、言い換えを臨機に行うことができる。	子どもの考えの根拠を確認し、子どもの学習状況に適した説明や補足、修正、言い換えを臨機に行うことができると同時に、子どもの不安、動揺を納め、安全な雰囲気作りへの対処を臨機に行っている。
⑤ハプニング（突発事故）への対応	ハプニング（突発事故）に対して冷静に立ち向かっている。	子どもの不安、動揺を納め、安全な雰囲気作りへの対処を臨機に行っている。	子どもの不安、動揺を納め、安全な雰囲気作りへの対処を臨機に行っていると同時に、子どもの不安、動揺を納め、安全な雰囲気作りへの対処を臨機に行っている。

観点＼段階	段　階　1	段　階　2	段　階　3
2．教具の活用			
1)板書 ①内容	板書の計画や板書事項の工夫が適正に行われている。	子どもたちの学習活動に必要とされる言語情報や楽譜が的確に配置された板書内容を適正に提示している。	子どもたちの学習活動に必要とされる言語情報や楽譜が的確に配置された板書内容を適正に提示していると同時に、その工夫の方法を他者に指導することができる。
②技能	板書事項と口頭による説明や音楽的表現を分けて実行している。	子どもたちの探究活動を触発するような順序で、範唱や発話を伴いながら情報を提示している。	子どもたちの探究活動を触発するような順序で、範唱や発話を伴いながら情報を提示していると同時に、その工夫の方法を他者に指導することができる。
2）教育機器・資料 ①教育機器の活用スキル	子どもたちが容易に情報を得ることができるような伴奏楽器や音響機器、映像機器等が選択され、スムーズに活用されている。	子どもたちの学習活動に必要とされる伴奏楽器や音響機器、映像機器等が選択され、子どもたちの探究活動を触発するような順序で活用されている。	子どもたちの学習活動に必要とされる伴奏楽器や音響機器、映像機器等が選択され、子どもたちの探究活動を触発するような順序で活用されていると同時に、それらの意義と方法について他者に指導することができる。
②資料の活用スキル	子どもたちが容易に情報を得ることができるような視聴覚情報や言語情報、楽譜等が選択され、スムーズに活用されている。	子どもたちの学習活動に必要とされる視聴覚情報や言語情報、楽譜等が選択され、子どもたちの探究活動を触発するような順序で提供されている。	子どもたちの学習活動に必要とされる視聴覚情報や言語情報、楽譜等が選択され、子どもたちの探究活動を触発するような順序で提供されていると同時に、それらの意義と方法について他者に指導することができる。
3．学習者への評価	音楽に対する関心・意欲・態度、音楽の美しさの感受と表現の工夫、音楽の構造の知覚という観点から評価の内容を設定し、適切な方法で評価活動を行っている。	学習指導過程立案において明確化された評価の観点に基づいて、整合性のある評価活動を実施している。	学習指導過程立案において明確化された評価の観点に基づいて、整合性のある評価活動を実施していると同時に、子どもたちの学習状況に適した評価の内容と方法を他者に指導することができる。

観点＼段階	段　階　1	段　階　2	段　階　3
Ｃ．授業評価力（自分の授業や他者の授業の成果と課題を明らかにする能力群）			
１．自分の授業の構想と実践に対する評価	事前に構想された学習指導案と子どもたちの学びの実際に基づいて、自分の実践した授業の成果と課題を論評することができる。	自分の授業を対象化し、音楽科教育のカリキュラム理論や授業理論、子どもたちの学習状況、教材の特性、立案された授業目標等に基づいて、反省的に分析し、成果と課題を明確化することができる。	自分の授業を対象化し、音楽科教育のカリキュラム理論や授業理論、子どもたちの学習状況、教材の特性、立案された授業目標等に基づいて、反省的に分析し、成果と課題を明確化することができると同時に、このような反省的な考察の方法を他者に指導することができる。
２．他者の授業の構想と実践に対する評価	事前に構想された学習指導案と子どもたちの学びの実際に基づいて、観察した授業に関する気づきや疑問点を言明することができる。	他者の授業を対象化し、音楽科教育のカリキュラム理論や授業理論、子どもたちの学習状況、教材の特性、立案された授業目標等に基づいて、批判的に分析し、その成果と課題を共有することができる。	他者の授業を対象化し、音楽科教育のカリキュラム理論や授業理論、子どもたちの学習状況、教材の特性、立案された授業目標等に基づいて、批判的に分析し、その成果と課題を共有することができると同時に、このような批判的な考察と共有の方法を他者に指導することができる。